

百里・憲法9条の碑の除幕に当たって、建立実行委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

この百里平和公園に憲法9条の碑を建てようという話の直接の始まりは、2021年の憲法記念日にジャーナリストの伊藤千尋さんが水戸で講演をした際に、憲法9条の碑が全国各地にある、海外にもあるという話をされたのを伊達郷右衛門さんが聞いて、この百里に立てるという発想を得たところからでした。たまたま反対同盟の梅澤さんのご親戚の石屋さんがそのために使える石を提供してくれるという話があり、百里に関係の深い5つの団体が呼びかけて実行委員会に加入する団体を募り、募金を集めて建立に至ったものです。実行委員会には31団体が参加しています。

昨日までに県内外の82団体、534名の方々から募金が寄せられ、今日の建立に至りました。石材の提供をいただいた、坂入としお様、工事の施工をしていただいたおおよしたかし様、ありがとうございました。そのほか、建立に関係された全ての皆様、そして募金をお寄せいただいた団体・個人の方々に心から感謝申し上げます。

伊藤千尋さんによれば、今全国に33の憲法9条の碑があるそうですから、この碑は34個目となります。しかし、自衛隊の基地のど真ん中にできるというのは全国初めてということです。

この碑には、碑文にもあるように、百里の農民とこれを支援する闘いを広く市民に知ってもらい、後世に伝えるという意味が込められています。この百里平和公園の土地自体、「戦争のためには土地は売らない」とたたかってきた反対同盟の農民と、これを支援する百里基地反対連絡協議会をはじめとする運動の力で守られてきた土地です。こうして、今や百里基地は、「自衛隊は憲法違反」という大看板に見下ろされ、憲法の条文を刻んだ石碑によって誘導路がくの字に曲げ

られているという世界にも例のない基地になったのです。

今、ウクライナで、ガザ地区で、この瞬間にも、多くの命が戦争によって奪われ続けています。国際法に違反した侵略行為やジェノサイドは強く糾弾されなければなりません。

国内では、安保法制の強行によって集団的自衛権の行使が制度として認められたばかりか、安保3文書によって長射程ミサイルなど反撃能力・敵基地攻撃能力の保有が進められています。軍事費を5年間で2倍にするという岸田内閣の軍拡路線は、安全保障の名の下に国民生活を犠牲にするものです。

しかし、こんな時代だからこそ、いかなる国際紛争も武力による解決をしてはならないという憲法前文と9条の精神が、現実の国際政治を動かす力を発揮することを強く期待したいと思います。

この先、さまざまな困難や紆余曲折があっても、この日本が、いつかは、9条が理想とした、戦争も軍隊もない国となる日がくることを信じたいと思います。それは募金を寄せてくださった多くの方々の共通の思いであると思います。私たちに代わって、その日をしっかりと見届けてくれることを、この百里・憲法9条の碑に託しまして、除幕にあたっての挨拶とします。

ありがとうございました。

2024年2月11日

百里・憲法9条の碑建立実行委員会

委員長 谷 萩 陽 一